

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第106回本部会議 記録

日 時／令和4年4月15日（金）
15：00～：15：20
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第106回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。まずスライドの1でございます。主な指標の状況ですが、昨日、4月14日時点で新規感染者数は、引き続き、今週先週比で1を上回っております。人口10万対でいきますと、新規感染者数は、札幌市360.1人、札幌市を除く地域で260.4人、全道で297.8人と、いずれの地域でも増加が見られておりました、療養者数も同様の傾向でございます。

また病床使用率ですが、札幌市で23.6%と増加傾向にありますほか、全道は16.6%、札幌市を除く地域が13.4%と、足下で概ね横ばいの状況が続いております。

続いてスライドの2です。各圏域ごとの状況ですが、新規感染者数は、多くの圏域で今週先週比が1を上回るなど、増加傾向が見られておりました、特にオホーツク圏など、地域によっては大きく増加している状況でございます。療養者数も同様の傾向でございます。

一方で病床使用率ですが、札幌市を除く道央圏や道南圏など、減少が見られる圏域がある一方で、足下で増加傾向にある圏域が複数存在しております。

続いてスライドの3、総評でございます。医療提供体制です。3月下旬以降の増加傾向が続いてきた療養者数ですが、ここ数日は増減をしながら増加傾向にあります、人口10万対では405.6人。また病床使用率は、4月に入りまして増加傾向となっていたものの、ここ数日は増減をしながら横ばい傾向が続き16.6%。札幌市の病床使用率は増減を繰り返しながらも増加傾向にあります、23.6%となっております。

感染状況です。新規感染者数は、増加傾向が続きまして、人口10万対では297.8人で、年代別では、30代以下が約7割、引き続き若年層が感染確認の中心となっております。感染性がより高いとされておりますオミクロン株のBA.2系統については、道内ではこれまでに85件が検出されておりました、このうち道立保健所管内分の検出率でいきますと22%となっております。

スライド4、今後の対策です。新規感染者数が高い水準で推移し、今後、感染性がより高いとされているBA.2系統への置き換わりが進むことが懸念されておりますほか、人の移動が活発なゴールデンウィークを控える時期となりますので、感染拡大防止に向けまして、道民の皆様にご協力をお願いしたい行動として、改めて三つの密の回避やマスクの着用、飲食の際の行動など、基本的な感染防止行動を効果的に働きかけてまいります。

ワクチンですが、全世代の3回目接種率が46.9%で、全国平均とほぼ同ペースで進んでおりますものの、このうち64歳以下の接種率は、2回目の接種時期の関係もありまして、全国平均を下回っており、新たな接種対象であります12歳以上17歳以下の方も含めた若年

層への積極的な呼びかけに加えまして、道のワクチン接種センターで大学や企業等を対象とした小規模な団体接種を開始するなど、幅広い世代での3回目接種の加速化を図ってまいります。

また無料検査事業のうち、感染拡大傾向時の一般検査事業では、レベル2相当以上の感染状況が継続していることに鑑みまして、4月17日までの事業実施期間を5月末まで延長することとしております。なお、この間、感染急拡大によりまして、抗原検査キットが不足するなどの状況が生じておりましたが、現在、検査キットの供給状況が改善しましたので積極的な検査を推奨してまいります。

BA.2系統ですが、引き続き、ゲノム解析によるモニタリングを実施しまして、その動向をしっかりと監視してまいります。

次にスライド5以降につきまして、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

スライド20をご覧ください。年代別の新規感染者数の推移ですけれども、スライド中央の表にありますとおり、30代以下、また60代以上ともに増加傾向となっております。さらに入院患者数の推移ですが、オレンジの折れ線グラフのとおり、2月末以降減少傾向にありましたけれども、足下で増加傾向が見られております。

次にスライド25をご覧ください。3回目接種の状況ですけれども、4月13日現在の3回目接種者数は、VRSベースで約245万人と、全人口に対する接種率は先ほど申し上げたとおり46.9%で、このうち65歳以上の高齢者の方は、約140万人、接種率は84.1%で概ね全国並みとなっております。

続いてスライドの28をご覧ください。4月9日から運営を再開しております道のワクチン接種センターでは、本日より4月29日から5月8日接種分の予約を開始しております。明日、4月16日は既に接種予定数に達しておりますけれども、それ以外の日程については、予約枠に空きがございますので、引き続き積極的な広報などを進めてまいります。

2つ目の丸、総評でもお話ししましたが、現役世代や若者世代の3回目接種を加速するため、道のワクチン接種センターで、企業や大学などの単位での団体接種の実施に向けまして、4月18日から指揮室ワクチン班内に、問い合わせに対応するための相談窓口を設置いたします。

最後にスライド29をご覧ください。1つ目の丸、小児へのワクチン接種が順次進めておりますけれども、接種率は1回目10.4%、2回目が3.4%となっております。

2つ目の丸です。武田社ワクチン、ノババックスですが、来週以降、予防接種法に基づく予防接種として位置づけられる予定となっております。道内には5月下旬に、約750回分のワクチンが配分される予定となっております。国からは各都道府県に少なくとも1ヶ所の接種会場を設置した上で、円滑な接種体制の整備に取り組むよう要請されておりました。道においても接種会場の設置について調整中でございます。

その他のスライドについては、本日の説明に関するデータでございますので後ほどご覧いただければと思います。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料2に基づきまして札幌市の感染状況をご説明いたします。

それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてでありますけれども、昨日の4月14日現在時点では、7,063人、人口10万人当たりでは360.1人と3月下旬からの増加傾向が続いておりまして、BA.2系統への置き換わりも進んでいる状況から、今後の動向には注意が必要だというふうに考えてございます。

それでは次のスライドをご覧ください。入院患者数でございますけれども、黄色の棒グラフにつきましては、昨日時点で入院患者数149人となっております。入院患者につきましては、軽症の方が多く、直ちに病床が不足しない状況であることから、重症化を防ぐ目的とした治療薬を投与するための入院調整なども積極的に進めているところでございます。一方、施設の集団感染の発生も入院患者の増加に影響しており、今後の推移につきましては、動向を注視していく必要があると考えております。重症患者は赤の折れ線グラフでございますけれども、1人と低い水準であります。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数でございます。直近の1週間では16,972件であります。陽性率は4割を超え高い水準での推移でございます。今月の月末には大型連休が控えておりますけれども、社会経済活動との両立のためにも会話の際のマスクの着用など、場面に応じた感染対策の徹底や、ワクチン接種の推進が重要と考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に春の感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願いにつきまして、総合政策部長から説明願います。

【濱坂総合政策部長】

それでは資料の3、春の感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願いをご覧いただきたいと思っております。感染力が強いとされるBA.2系統への置き換わりが懸念される中、道民の皆様が感染防止行動に取り組んでいただけるよう、特に重要な感染防止行動について、3つの行動として重点化をいたしまして、分かりやすくお伝えをしてみたいと考えております。

スライド2をお願いします。3つの行動の1つ目、普段の生活において、三密の回避やマスクの着用、換気の徹底といった基本的な感染防止行動をお願いいたします。2つ目の飲食の場面では、短時間、深酒をせず、大声を出さず、会話の時にはマスクの着用をお願いします。特に大人数や普段会わない方との飲食の際は、これらの行動をより一層徹底していただきたいと考えてございます。3つ目、感染しているかもと不安を感じる場合には、ワクチン接種の有無に関わらず、検査を受けていただくようお願いいたします。

なお、事業者、高齢者施設、保育所、学校への要請やイベントの開催制限につきましても、引き続き取り組んでまいります。

続きまして、お手元の資料4をお願いいたします。春の感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願いにつきましては、有識者の皆様などにご確認をいただいたところでございます。有識者、専門家の皆様からは概ね妥当であるとのご意見をいただいておりますが1-②です。より一層のワクチン接種の推進、特に若い世代への接種の加速をお願い

いをする。1-④、感染防止対策を進めつつ、社会経済活動をどう回復させていくかということが重要であり、そこにしっかりと取り組んでほしい。

2ページ目をお願いいたします。市町村、団体の皆様からも概ね妥当であるというご意見でございましたが2-①でございます。PCR等検査無料化推進事業において、実施機関の拡充や対象期間の延長など、感染状況に応じた柔軟な運用を行ってほしい。2-③でございます。今一度、マスクの着用、換気の励行等の基本的な感染対策を強いメッセージで発信するようにお願いする。というようなご意見をいただいたところでございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

ただいま説明のありましたとおり、春の感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願いにつきまして、決定したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

では、そのように決定いたします。

次に各部、振興局から順次発言をお願いします。まず、環境生活部長からお願いします。

【森環境生活部長】

資料5によりまして環境生活部における感染防止対策等の取り組み状況についてご説明をいたします。まず感染拡大の防止に関する取り組みについてでございますが、対策本部会議の開催状況など、感染症に関する情報につきましては、文化スポーツ関連団体や廃棄物処理関連団体など当部の関係団体と情報を共有し、感染拡大の防止を図っております。

また所管する施設におきましては、新北海道スタイルの取り組みに加え、例えば北海道博物館では、音声案内は押しボタン式からセンサー式に変更するといった非接触型の展示を導入するなど、対策に取り組んでいるところでございます。さらに道内関係のアスリートによります感染拡大防止のメッセージ動画を作成、配信しており、これまでプロスポーツ選手やオリンピックなど21名の方々にご協力をいただいているところでございます。

次に差別・偏見の防止に関する取り組みについてでございますが、感染症に関連する差別や偏見などに対応するため、道民の皆様からご相談を受ける窓口を庁内に設置し、これまでに250件を超える相談に対応したほか、相談事例につきましてはわかりやすく紹介をするチラシを作成、配布しております。また差別の防止を呼びかけるため、知事メッセージの発出に加えまして、ポスターやチラシを作成、配布するとともに、バナー広告の実施や、新北海道スタイルのピクトグラムに人権啓発の促進を追加するといった取り組みを行っているところでございます。さらにこちらのプロスポーツチームと連携した啓発といたしまして、コンサドーレ札幌の選手による差別や偏見をなくすよう呼びかけるステージ動画の配信を実施しております。

最後に感染状況を踏まえた事業展開についてご紹介をいたします。ご自宅におられましても、オンラインで本道の文化に触れられるよう道内113ヶ所の博物館、美術館の施設や収蔵品に関する情報に加えまして、縄文をテーマとした周遊ルートなどのコンテンツを、多言語で包括的に発信をいたしますデジタルミュージアムの本格運用を開始したところでございます。また人形劇や対話によりアイヌの歴史や文化に触れることができる動画を作成し、YouTubeでの公開により、理解の促進を図るほか、道内の自然公園でのワーケーションの定着・発展に向けまして、モデルプランを策定し、これをご紹介するガイドブックの作成により取り組んでいるところでございます。

部といたしましては、引き続き関係機関団体と連携し、感染防止対策や感染状況を踏まえた事業の実施に努めていく考えでございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

このほか各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（知事）】

本日の新規感染者数であります、2,605人ということで3日連続で2,000人台ということとなりました。全道の人口10万人当たりでいいますと、305.2人ということになっており、増加傾向が続いています。病床利用率、こちらについては増減しながら横ばいという状況になっています。道内でも感染力が強い、BA.2系統の確認の数、検出率ともに徐々に増加を続けています。この点についても、一層の警戒が必要な状況であります。

こうした中、現在の年度末、年度初めにおける再拡大防止対策、こちらは4月17日までとなっているわけですが、対策とこういうことで期限を定めて取り組むということについては終了いたします。道民の皆様、事業者の方々にはこれまでのご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。18日以降でありますけども、BA.2系統への置き換えなどが懸念をされる中におきまして、今まで以上に道民の皆様のご理解ご協力、これが必要となりますことから、道民の皆様、お一人お一人に実践をしていただけるよう、特に重要な行動について、3つの行動ということで重点化し、お示しをすることでよりわかりやすくお伝えするという考えのもとで取り組んでいくことといたしました。

具体的には1つ目として、普段の行動。三密の回避、人との距離の確保、手指消毒や換気、こういった基本的な感染防止行動の徹底、これを改めてお願いするものであります。

2つ目は飲食の場面の行動。短時間、深酒をせず、大声を出さず、会話のときにはマスクを着用するというお願いであります。またお店は第三者認証店、こちらを選んでいただいて、飲食の場面から感染が広がる、このことはできるだけ防いでいく、こういうことを進めていきます。

3つ目でありますけども、感染不安を感じる際の行動です。感染に不安を感じている無症状の方については、ワクチン接種に関わらず検査を受けていただきたいということがあります。こうした検査については、道で無料検査、これを実施しています。この度、この無料検査、この期限を5月の末まで延長するということといたします。こちらについて積極的に活用していただきたいと思っております。各本部長、地方本部長においては、この今お話をしました3つの行動、このお願いがしっかりと道民の皆様に届くように周知、普及啓発に取り組むとともに、地域の感染状況に応じた体制の確保などについて対策を行っていただくように指示をいたします。

そしてワクチンの3回目の接種であります。道内では高齢者の方の8割以上の方が3回目の接種、これを終えたわけですが、20代、30代の方につきましては、2割台にとどまっています。今後、若い世代の接種、これをさらに加速させていく必要があります。このため道の北海道ワクチン接種センターがありますが、こちらにおいて、企業や大学などを対象とした団体接種、これを新たに実施いたします。来週の18日から予約受付を開始いたしますので、若年層をはじめ、幅広い世代での3回目の接種、これが一層進むように企業の方々などに対してワクチン接種後の体調なども鑑みまして、従業員の皆様が接種しやす

い職場環境、この整備について、改めて依頼をするとともに、丁寧な相談対応や積極的な情報発信に取り組んでください。また道内各市町村においても、3回目接種が進むように引き続きしっかりとサポートをしていただきたいと思います。

こうした中、4月8日になりますが、国の新型コロナウイルス感染症対策分科会が行われまして、今後の感染拡大時の対応について、近く提言がまとめられるということになりました。こうした議論は本道にとっても重要なものになりますので、速やかな情報収集に努めるようお願いいたします。さらに今後の感染拡大に備えまして、国からも全国の都道府県に対して、保健医療提供体制の対策徹底、強化などが求められています。道としても早急に今後の対応方向をとりまとめるように指示をいたします。

最後になりますが、今月下旬にはゴールデンウィークが始まります。この時期は人の移動、会食の機会、これがより一層活発になるということがあります。各本部員、地方本部員においては、高い警戒感を持って感染状況についてしっかりとモニタリングしながら、対応について検討を進めるよう指示をいたします。

私から以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第106回本部会議を終了します。

(了)